

研究主題

「心豊かにたくましく生きる力を育てる道德教育」
～自他を大切にし、自立した生活を送ることのできる生徒の育成～
川島町立西中学校

1 研究主題の設定理由

現代社会において、科学技術の進歩は私たちの生活に多大の恩恵をもたらした一方で、それを活用する私たちの問題から様々な影響が見られる。更に、生徒の成長に強く影響する社会全体のモラルの低下が指摘されている。社会全体や他人のことを考えず、もっぱら個人の利害損得を優先したり、夢や目標に向けた努力が軽視されたりするなどの社会的風潮が見受けられる。このような社会的風潮は、社会全体の規範意識を低下させ、生徒の豊かな心の成長にも影を落とし、生徒が本来持っている人間としてよりよく生きようとする力を弱めさせかねない状況にある。

そこで、生徒を取り巻く変化の激しい社会では、他人と協調しつつ自律的に社会生活を送ることができる人間としての実践的な態度と豊かな人間性が求められる。特に、生命を尊重する心、生徒の自立心や主体性を育て、基本的な生活習慣、規範意識、人間関係を築く力、社会参画への意欲や態度などの「生きる力」を身に付けることが重要であると考え、本研究主題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 道德教育の推進を図ることによって、自他の生命を尊重し自尊心を養うことで生徒がよりよく生きられるようになる。
- (2) 道德教育の授業の充実を図ることで、自他を大切に、自立した生活を送る生徒を育成することができる。

3 研究の経過

- 4月 学校課題研究の共通理解
- 5月 道德コーナー設置、道德的な掲示物
QU「楽しい学校生活を送るためのアンケート」の実施、結果分析
- 6月 校内研修 評価について
ローテーション授業公開 学年ごと～2学期
- 9月 全クラス公開授業の実施
校内研修 評価について
- 11月 道德教育推進モデル校本発表
第2回QU「楽しい学校生活を送るためのアンケート」の実施
歌う道德講師大野靖之氏コンサート

4 研究の内容

(1) 「考え、議論する道德授業」への質的転換の推進

- ・多様な指導方法の工夫・改善（問題解決的な学習、読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、役割演技、体験活動、動作化等）を図った。
- ・研究授業を計画的に実施した。彩の国の道德「自分を見つめて」の教材も積極的に取り入れた。



(2)

(3) 彩の国の道德「父の一言」授業風景

「十一月」話し合い活動の授業風景

(4) ローテーション道德授業の実施

- ・学年毎にローテーション道德授業を実施（担任以外の教師による授業5回）した。

※すべての教師の指導力（授業力）の向上を図る。

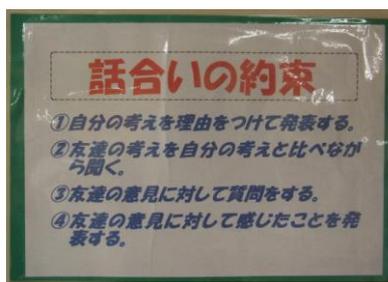
※生徒の道德科の評価を複数の教師で行うことができる。

(3) 道德『掲示板』の設置と掲示物の工夫

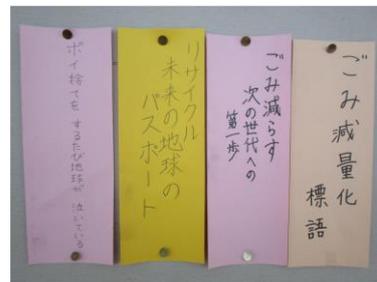
- ・昇降口付近に「道德コーナー」を設置し、生徒の道德的諸価値を高めるための環境整備を行った。（道德的な格言、感動を与える新聞記事、学校行事やボランティア活動の写真などを月ごとに掲示している。）
- ・教室や廊下も道德的な掲示物の工夫を行った。（話し合いの約束、川島町ゴミ減量化作戦ポスター、標語等掲示している。）



道德コーナー 10月



話し合いの約束



川島町ゴミ減量化作戦標語

(4) 学級経営の充実・改善

- ・生徒のよさを伸ばす学級経営を行った。「考え、議論する道德」の授業を行う基盤として、教師と生徒、生徒と生徒の間で信頼関係が築かれ、温かな雰囲気と安心して学習できる環境が不可欠である。

そこで、担任の個性を生かし、生徒一人一人が大切にされ、存在感の感じられる学級経営の実践・改善に努めた。また、「考え、議論する道德」の授

〈様式2〉平成30年度埼玉県道德教育研究推進モデル校・協力校 実績報告書

業での話し合いを充実させるために、全校で話し合いの約束についての共通理解を図り、各教科、領域でその実践に取り組んだ。

- ・QU「楽しい学校生活を送るためのアンケート」の実施と分析（年2回）を行った。客観的アンケートを実施し生徒一人一人の生徒理解に努めるとともに、その結果を分析し学級経営のさらなる充実と改善に努めた。

(5) 道德科の評価の研究

- ・道德科の評価についての共通理解を図った。
 - これからの道德教育 ～「特別の教科 道德」の実施に向けて～
 - 「特別の教科 道德」の実施に向けた指導と評価
- 講師を招き上記の演題でご講演いただき研修を行った。



6月 研修会



9月 講演会

- ・評価のための『道德ファイル』を全校統一で用意した。道德科においては、①道德科の授業での生徒の学習状況、②道德科の授業を通して把握できる生徒の道德性に係る成長の様子、の2点を評価することが大切である。そこで、生徒の学習の過程や履歴（ワークシート）、成果（道德ノート）などの記録を蓄積し、道德科の評価に活用するために全校で『道德ファイル』を準備し、生徒理解に努めた。
- ・本校独自の補助簿を用意し、顕著なものに◎、○を付ける。ローテーション授業を行った教師も記入し、その後の指導に役立てた。

(6) 諸指導計画の作成

- ・道德教育に対する共通理解を図るために、全職員で道德教育に係わる指導計画を作成した。
- ・「全体計画」と「学級における指導計画」を作成し、「学級における指導計画」は学級経営案に記載した。
- ・年間指導計画は3月上旬までに作成する予定である。各学年ともに、彩の国の道德「自分を見つめて」と「私たちの道德」のどちらかを、各学期に組み合わせることとした。
- ・別葉も3月上旬までに全職員で作成する予定である。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・指導案の検討などを学年組織で行い、1時間の授業の中に話し合いを取り入れるなど工夫した指導ができた。
- ・教材の提示の仕方、説明、発問の短冊などの工夫が各学年でみられ、生徒が道徳科の時間に意欲的に参加するようになった。
- ・ワークシート、やる気グラフなど教具の工夫と共有化や、授業中の座席の形態(円にする、コの字、机なし等)を工夫し、活発な話し合い活動の流れをつくることのできた。
- ・ローテーション授業の取り組みにより、担任だけでなく学年の教師全員で指導し、評価の方策を考えることができた。
- ・信頼関係に基づく学級経営を基盤として、教師と生徒、生徒と生徒の活発な意見交換がなされ、生徒が前向きに取り組む姿勢が確立できた。
- ・校内の道徳コーナーや教室の掲示物等を工夫することで生徒自身が自己を見つめたり、多面的、多角的な考えを持ったりできるようになった。
- ・[B 礼儀]を重点指導内容項目として取り組んできたこともあり、どの学年においても「規律ある態度」のあいさつ・返事が良くできている。
- ・校内授業研究会や外部指導者を招聘しての本発表会を実施したことにより、資料提示の仕方や発問構成、板書の工夫、話し合いの取り入れ方など、指導方法の工夫・改善を図ることができた。また、参観いただいた小中学校の先生方から研究協議会でご意見をいただいたり、授業の感想を提出していただいたりして、全教職員で共有を図った。このことによって教師の指導力向上へとつながっただけではなく、今後の研修への意欲を高めることとなった。
- ・道徳コンサートにおいて「天使の舞い降りた朝」を涙しながら聴く生徒の態度に、心が育っていると感じた。

(2) 課題

- ・活発な話し合いが行われていたが、話し合いが目的化してしまい、ねらいとする道徳的価値の理解、自覚が図れていない。話し合いは、道徳的価値の理解、自覚を図る手段であることを常に意識して授業実践をする必要がある。
- ・『道徳科の評価』の補助簿と、自分のものの見方や感じ方を記入させたワークシートの活用が不十分であった。今後、全職員で共通理解を図り、本校としての評価の基本を確立する必要がある。
- ・道徳の時間をさらに充実させるためには、学級内のよりよい人間関係が重要である。さらなる研修を通して、学級経営力を身につけていく必要がある。
- ・道徳的価値を理解させるとともに、人間理解や他者理解をさせることが大切であるが、生徒の言葉をゆさぶる切り返しのタイミングと、適切な発問ができない場面が見られた。公開授業を繰り返し行うことで、経験を重ねていく必要を実感した。